

1. 姫路市水道事業の概要

【水道事業の沿革】

年月	沿革	計画給水人口 (人)	計画1日最大給水量 (m ³ /日)
T15.5	創設 (S4.2給水開始)	70,000	11,690
S32.1	第1期拡張事業	190,000	47,650
S35.11	第2期拡張事業	205,603	55,153
S37.3	第3期拡張事業	271,724	77,800
S39.12	第4期拡張事業	400,000	160,000
S48.3	第5期拡張事業	515,000	320,000
H3.10	第5期拡張事業一部変更	515,000	320,000
H18.3	第5期拡張事業統合	542,165	235,000
H21.4	第6期拡張事業	534,310	217,000
H26.3	第6期拡張事業一部変更	534,000	203,000

【姫路市の水道施設】

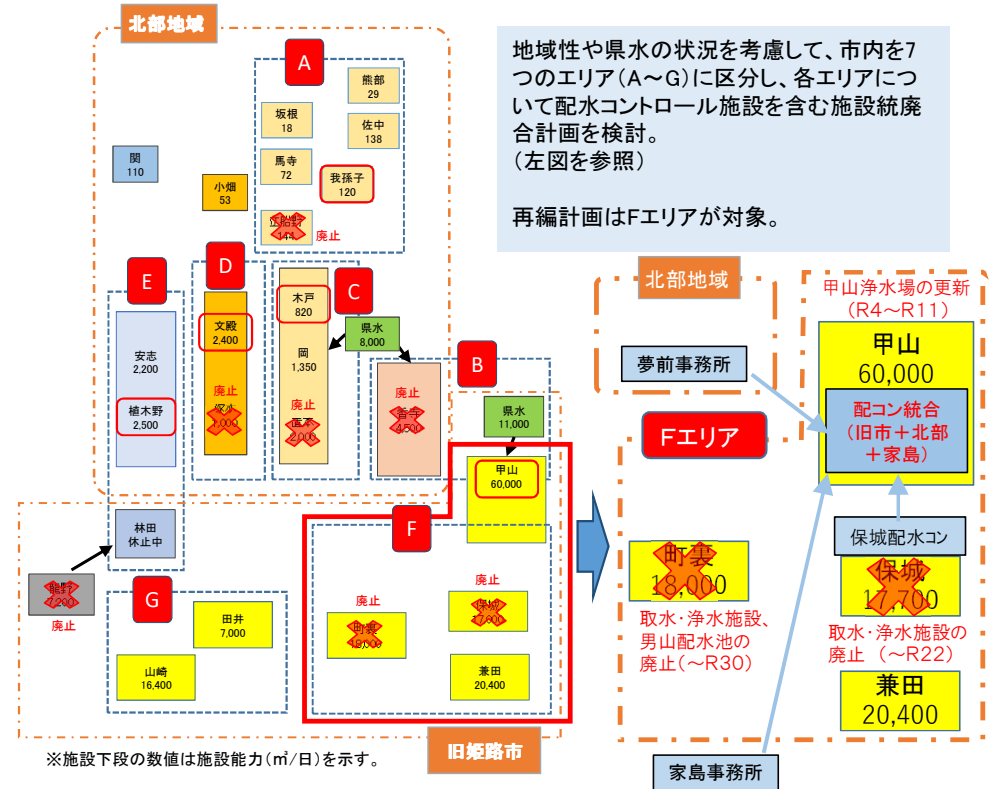


【水道施設の概要】

令和2年度末現在

取水施設	<ul style="list-style-type: none"> 自己水源（河川、地下水）31箇所 約164,000m³/日 県水 約77,000m³/日 赤穂市・西播磨水道企業団から 9,000m³/日 合計 約250,000m³/日
浄水場	●23箇所 約164,000m ³ /日
配水池	●79箇所(耐震性貯水槽9箇所含む) 約144,000m ³
管路	●全延長 約2,980km(うち基幹管路延長 約344km)

(2) 水道施設統廃合計画のイメージ



2. 姫路市の水道施設統廃合について

(1) 水道施設統廃合への取り組み

姫路市では、水道事業を取り巻く環境が著しく変化するなか、災害に強く安定した「強靱」な水道を目指し、その施策の一つとして、浄水・配水施設の計画的更新と耐震化に取り組むとともに、投資の合理化を図るため、施設規模の適正化に取り組んでいます。

課題

施設の老朽化への対応
施設の耐震性不備への対応
水需要減少への対応

実現方策

優先度の高い施設から耐震化を進めていくとともに、投資の合理化を図るため施設規模の適正化(水道施設統廃合計画)に取り組む。

3. 基幹浄水場(市川水系関連施設)再編計画について

(1) 再編計画の概要

◆「甲山浄水場の更新」

基幹浄水場である甲山浄水場(昭和45年竣工)に老朽化進行や耐震性能不足の課題があることから、現在地から約700m南の用地に現在と同規模の浄水能力である60,000m³/日の浄水場を建設・移転します。

◆「保城浄水場取水施設・浄水施設の廃止」

保城浄水場(昭和38年竣工)は、市内の配水をコントロールする配水コントロールセンターのある基幹浄水場で、甲山浄水場と同様の課題がありますが、新甲山浄水場に配水コントロールセンターを移転した後は、浄水場を更新するのではなく、別計画で進めている甲山幹線更新事業が完了した後に、保城配水場として再整備した上で、取水・導水施設と浄水施設を廃止し、すべての機能を新甲山浄水場に統合する予定です。

◆「町裏浄水場・男山配水池の廃止」

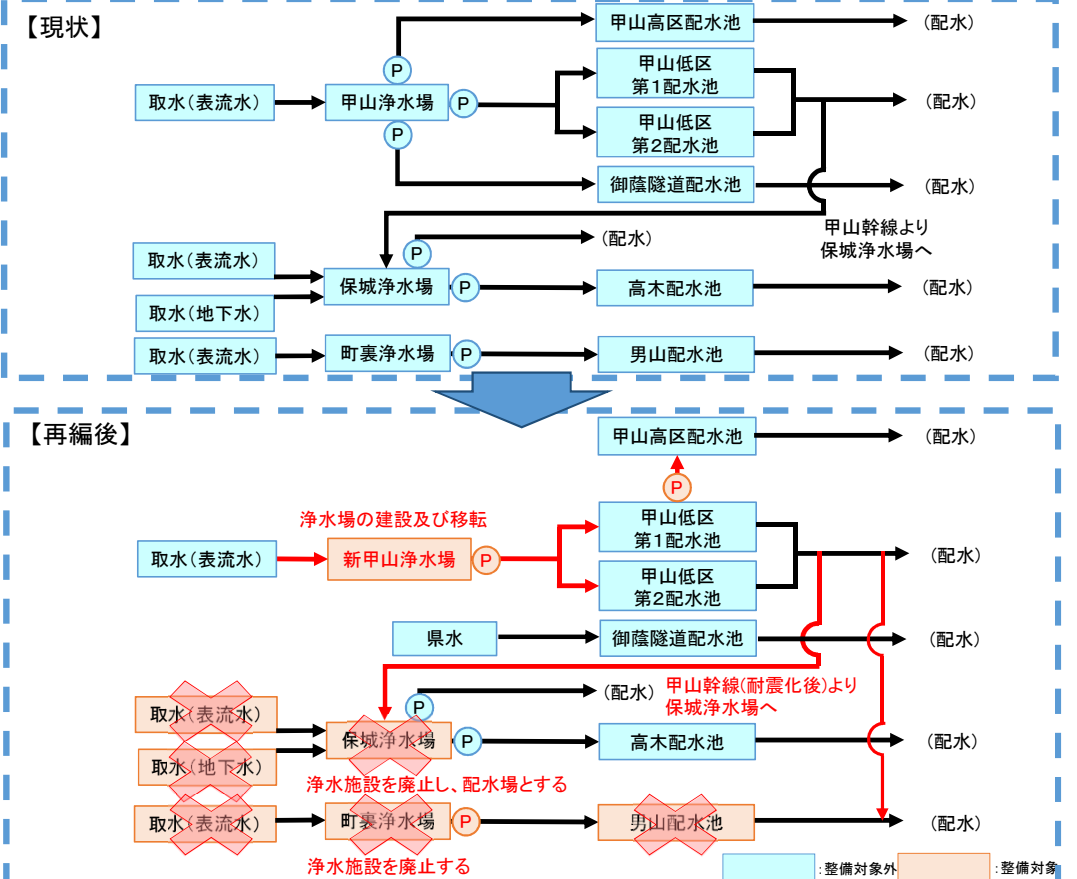
町裏浄水場(昭和4年竣工)は、姫路市最初の浄水場で、緩速ろ過の基幹浄水場です。姫路市水道の創設期から稼働している浄水場ですので、老朽化の進行が著しい状況です。市内の水需要等を勘案しながら、令和30年度において廃止する予定です。また、これに伴い同時に男山配水池を廃止する予定です。

これらをあわせて基幹浄水場(市川水系関連施設)再編計画としています。

(2)再編計画における事業実施位置図



(3)再編計画のイメージ



4. 基幹浄水場(市川水系関連施設)再編計画スケジュール*

事業名	年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	...	R29	R30	
		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	...	2047	2048	
					新浄水場建設						●														
甲山浄水場の更新																									
保城浄水場再整備 取水・浄水施設の廃止																									
町裏浄水場の廃止 男山配水池の廃止																									
参考: 甲山幹線更新事業																									

* 整備スケジュールは社会情勢などにより、変更となる場合があります。